

神奈川県鎌倉市

市民に信頼される市政運営を

神奈川県は、市民の暮らしに直結するごみ処理施策の先行が見え、「まちの未来のための守りと攻め」という予算編成方針における特に「攻め」の部分の将来投資の熟度を問題視して、一般会計予算に反対しました。各派代表質問では、市民の暮らしを守る福祉・防災・子育て支援と共に、環境の分野の課題を多岐にわたり取り上げました。

●広域化が解決にならない

2市1町の「ごみ処理広域化実施計画(素案)」では、生ごみの資源化で燃やすごみの量を減らしても、逗子市の焼却施設での受け入れ可能な量を上回る場合は、自区外の民間事業者へ処理委託をすることになっています。また、逗子市の焼却施設の稼働停止後は、施設の更新を行わず、2市1町の燃やすごみは全て圏域外の処理に委ねることになります。あまりにも不確かな広域連携と言わざるを得ません。

燃やすごみの量を減らす上で決め手とされた生ごみ資源化施設については、候補地の周辺住民から強力な反対の声が上がっています。施設の技術的な課題だけでなく、ごみ処理施設立地の負担を長年強いてきた経緯や道路事情からしても、当該地の施設整備を強行するべきではありません。える影響にも注意すべきです。

鎌倉みらい

新基本計画の完遂を期した予算がスタート

第3次鎌倉市総合計画の最後の6年間に当たる第4期基本計画、そのスタートに当たる令和2年度一般会計予算は、か諸議案に賛成いたしました。持続可能な鎌倉の未来に、議決責任と説明責任を果たし、予算執行を監視・評価していくことを約束いたしました。

●納得性の高い再編計画に

公共施設再編計画の見直しは、「持続可能な都市経営」の視点で、公共施設マネジメントの方針や施設更新に要する財源確保、防災対策等が考慮されて行われます。また、利用者需要の変化等の社会情勢を捉え、丁寧な説明と組織横断的なフォローの在り方を検討し、再編計画の理念や目的の周知が図られます。そして、現計画を基本に再編組織の体制強化が図られることが確認できました。これを評価し、市民の納得性の高い再編計画の推進を要望しました。

ICT人材の確保強化
鎌倉の目指すスマートシティは、AIやIoT、ビッグデータなどに優しいテクノロジーの活用を通して社会課題を解決していくこととするものです。また、実務面ではRPAの導入やAIを活用したツール、業務効率向上アプリの導入を計画しています。こうした業務環境の変化に

公明党

次世代に責任を持ち、共感される政治を!!

公明党鎌倉市議会議員団は、令和2年度一般会計予算など諸議案に賛成し、第4期基本計画の目標年次である令和7年度を見据えた市政運営により、「次世代に負担を先送りしない持続可能なまち」を目指すことを求めました。

●行財政改革

令和2年度の財政シミュレーションで27億4千万円の不足を見込んでおり、令和7年度までの計画期間に49億円以上の収支不足が見込まれていることから、各年度の収支差額の不足分を圧縮するよう計画的に行財政改革に取り組みを指摘しました。

●道路ブライジング
平成25年度から慢性的な交通渋滞解消のために検討してきたロードブライジングは、一般道に導入するには、克服すべき課題が多く、技術面と基本的な仕組みや税の公平性、徴収方法などとともに、現段階で市民や市内外の団体・企業などへの説明と理解が十分であることを指摘しました。

鎌倉夢会

持続可能なまち鎌倉の実現に向けて

松尾市長が3期目の折り返しを過ぎた今、「共生社会」共創「SDGs」の大きな旗印に向けて、市政運営を任せられた原点に立ち戻り、公約した政策の実現に向けてのよう現状か、課題は何か、そして今後の取り組みに着目して、代表質問や予算特別委員会検証を行いました。

●放課後からまっさら子の整備

ライフスタイルの変化に応じて、放課後生活が多様化する中で、全ての児童が放課後の時間を安全・安心に過ごすことができる「放課後からまっさら子」を実施していただいております。令和2年度には、全ての小学校区で整備が完了し、子どもの家の待機が解消されるとのことで大いに評価いたします。

●災害に強いまちに向けて
公開型GIS防災マップの運用開始や簡易型シャワーの備蓄など、災害に強いまちに向けて注力されたことを評価いたします。災害時に正しい情報を素早くお知らせし、市民からも情報を得ることや様々なツールを活用して、しっかりと伝わる取り組みを構築することを要望いたします。